

著作集の特色

- 1、シエリングの主要著作・論文を  
読み易く明快に翻訳。
- 2、研究水準の高い解説・注釈を加えた。
- 3、三種の注記(原注、校訂注、訳注)をそ  
れぞれ、本文中、該当ページ脇(傍注)、  
巻末(尾注)に配置し、明確に区別。
- 4、原典(初版本と息子版)のページ数を  
欄外に付した。

本文文字12級明朝

めには、したがって私が要求する立場に<sup>(1)</sup>よい。この捨象を行  
なうものにとつては理性は、たいていの<sup>(2)</sup>あることをやめ  
る。それどころか、理性はそれ自身もはや<sup>(3)</sup>観的なものある  
いは思惟されたものというものが可能な<sup>(4)</sup>思惟するものが、  
ここではまったく捨象されているからである。(An sich)とな  
る。すなわち、まさに主観的なものと客<sup>(5)</sup>。

哲学の立場は理性の立場である。哲<sup>(6)</sup>性の内に存在するが  
ままの諸物の認識である。哲学の本性<sup>(7)</sup>ことを、時間のいつ  
さいの区別を、そしておよそたんな<sup>(8)</sup>棄することである。そ

(a) SW...というのは、想像力が恆<sup>(9)</sup>力は産出的であり、想像  
力は再生的である(ここから再び<sup>(10)</sup>)。

IV115

第一巻 高山 守 編 自我と自然の哲学

哲学の原理としての自我について  
独断論と批判主義に関する哲学的書簡  
自然哲学に関する諸考案 序説  
世界霊について(抄訳)  
自然哲学体系の第一草案(抄訳)  
自然哲学体系草案序説

第二巻 久保陽一 編 超越論的観念論の体系

小田部胤久 編  
超越論的観念論の体系

第三巻 伊坂青司 編 同一哲学と芸術哲学

西村清和 編  
私の哲学体系の叙述  
哲学体系の詳述  
芸術の哲学 一般部門  
学問論 第十四講他  
哲学一般に対する自然哲学の関係について(抄訳)  
哲学との関連からみたダンテについて

第四巻 藤田正勝 編 自由と歴史の哲学

山口和子 編  
哲学と宗教  
人間的自由に関する哲学的探求  
シュトゥットガルト私講義  
諸世界時代 第一草稿

第五巻 大橋良介 編 神話と啓示の哲学

諸岡道比古 編  
神話の哲学への歴史的批判的序論  
第十、二十一、二十四講他  
啓示の哲学 第一書(第一―八講)